

【別冊】

# 総務教育常任委員会資料

(平成26年5月21日)

- ・平成26年度「第1回教育協働会議」の開催について . . . 1

未来づくり推進局

# 平成26年度「第1回教育協働会議」の開催について

平成26年5月21日  
企画課  
教育総務課

本県の子どもたちの未来のための教育振興のため、県内有識者と知事、県教育委員会が意見交換を行う、本年度第1回の教育協働会議を以下のとおり開催しました。

## 1 開催日時・場所

- (1) 日時 平成26年5月20日(火) 15時15分～16時45分  
(2) 場所 県立図書館 2階 大研修室

## 2 出席者

### (1) 有識者委員

(五十音順)

| 氏名                  | 所属  |
|---------------------|---|
| (あさお あつこ)<br>浅雄 淳子  | 鳥取県PTA協議会 事務局長<br>(元)学校・家庭・地域の連携による教育推進委員会 委員               |
| (いいつか じゅん)<br>飯塚 淳  | NPO 地域スポーツ推進協会 代表理事<br>ちやれきんぐ株式会社 代表 【欠席】                   |
| (いしはら たいち)<br>石原 太一 | 倉吉鴨水館 館長  |
| (まつばら あつこ)<br>松原 厚子 | 学校支援ボランティア(羽合小学校・北浜中) 代表<br>(元)鳥取県青少年問題協議会 委員               |
| (やがわ ひろみ)<br>谷川 裕美  | ソレイユ法務・FP事務所 代表<br>(元)鳥取県青少年問題協議会 委員<br>(元)鳥取県有害図書類指定審査会 委員 |
| (よこい しろう)<br>横井 司朗  | 全国専修学校各種学校総連合会 理事<br>学校法人 鶏鳴学園 理事長                          |

- (2) 鳥取県 知事、未来づくり推進局長  
(3) 教育委員会 教育委員長 教育委員、教育長

## 3 主な意見

### ○ 土曜授業等の取組について

#### (民間委員)

- ・保護者の間では土曜授業に対する期待が高い。
- ・学校を好きになるには勉強が解ることが大切。勉強の苦手な子どもがいる中で、学力の定着、あるいはステップアップにつながるような、土曜授業等の取組みが進むと良いのではないか。
- ・全国と比較した学力不足についての課題がある中で、中学校や高校それぞれの取組みでは足りない。大学進学というアウトプットを考えた場合、大学入試の点では中学・高校の連携が重要。
- ・子どもが持って帰ってきた資料には土曜授業等の取組みを行うことが書いてあるが、町教委からは、導入効果や導入目的についての説明は無く、一方通行。
- ・現代の子どもは人間関係の構築が下手であり、また、一旦壊れると修復ができないなど「ソーシャルスキル」が身につけていない。教育協働会議のような教育全般を議論する中で、ソーシャルスキルを身につけ、高めていくことを県全体の取組みとして、例えば土曜授業等の取組みの中で行う体制ができれば良い。

#### (教育委員)

- ・土曜授業等の取組みは教育の地域主権を取り戻す一つのきっかけとなる。保護者の方々は学校が何をしてくれるのかといった、サービスの享受者との発想になりがちだが、是非保護者の皆さんも積極的に声をあげて欲しい。
- ・ソーシャルスキルの向上の必要性に共感できる。お互いに良いところを認め合いながら、あらゆる授業の底辺・基礎としてあると良いと思う。
- ・土曜授業等について、特に授業以外の取組みについては継続が大切であり、今後、取り組んだ成果を把握して市町村へ伝えたい。

- ・土曜授業等の「等」が大切。様々な方法・取組みがあり、それを押しつけでは無く、地域や学校が一体となって取り組む事が大切。
- ・ソーシャルスキルは大学生の就職の際にも重要な能力。企業はコミュニケーション能力が身につけていたり、対人関係を築くことができる人材を欲している。もちろん学力・知識は必要だが、ソーシャルスキルの向上はその上にあるものとして重要。
- ・全国学力・学習状況調査の設問中に、正解を考えるのではなく、正解と思う内容を考え、その理由を答えさせる設問があった。これまで答えは一つとして教育してきたが、これに替わり、子どもの自主的な学びを支援する教育などに改めるべき。

## ○ 子どもたちの体力の向上等について

### (民間委員)

- ・小学生はスポーツ少年団に属して頑張っているが、中高に進学した際に学校にその種目の部活が無い場合がある。そうした子どもたちへの対策が必要。
- ・現代社会が便利さを追い求めた結果として体力が低下した面がある。発想を変えて、ICTを使った自然とのふれあいの場が創出できるのではないかな。
- ・体力について、例えば智頭の方は運動能力が高いと聞いている。都市部の子どもも自然体験等の中で体力が身につくと良いのではないかな。
- ・学童保育に通わせている母親の意見として、学童保育の中で宿題や体力について面倒を見てもらっていたが、指導員が代わったら見てもらえず、困っているという声を聞いている。

### (教育委員)

- ・授業に集中できるような、学力を支える体力も重要。運動する機会が減ってきており、自分たちで工夫して遊ぶことが下手になっている。
- ・ガイナレの選手による昔遊びや、体育専任の先生が教えるとおもしろかったという子どもが多く、そうした取組み・ノウハウを広げていくことが大切。
- ・運動を通じてソーシャルスキルが身につくこともあると思う。
- ・現在の子どもは、昔のように野外での遊びをしなくなっており、生活様式が昔とは変わっている。体力向上は、授業の中で取り組むしか無いのではないかな。
- ・智頭町では「森のようちえん」の取組みによって体力が向上していると聞いているので、体力を幼稚園の頃から向上する仕組みが重要ではないかな。

## ○ 総括

### (知事)

- ・土曜授業等の取組みについて、良い実践を広げてバージョンアップして広げていけるよう応援させて頂きたい。
- ・昔ながらの遊びの中に体力向上のカギがあるのではないかな、そこにガイナレの選手を連れてくるとか、保護者の力を借りるとか、仕組みがあれば、先生の負担を増やすこと以外でも道筋はあると思う。
- ・中山間地域ほど遊び場が無いとの話を良く聞く。子どもたちを一カ所に集めて遊ばせる仕組みが必要かもしれない。
- ・ソーシャルスキルトレーニングについては、公立・私立関係なく、場合によっては社会人も含めて、みんなで学び合う仕掛けを教育委員会と一緒に考えてみたい。
- ・学童保育は力強く進める必要があり、指導者の研修など充実に取り組んでいるところ。学童保育施設の取組みにはばらつきがあり、今後、市町村や教育委員会と相談させて頂きたい。

## 4 今後の予定

全国学力学習状況調査結果や平成26年協約の取組状況の点検等を議題に、9月頃に第2回会議を開催する予定。